



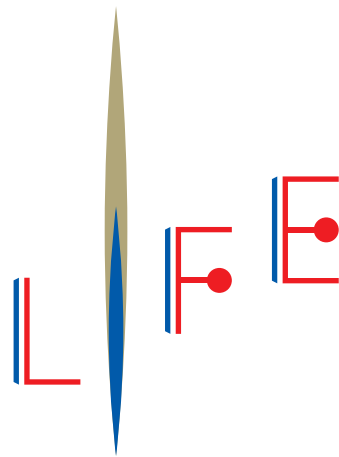
北尾 裕一

KITAO Yuichi

クボタ代表取締役社長
関経連副会長



さまざまな「いのち」輝く 未来社会の実現に向けて



このたび、関経連副会長を拝命いたしました。関西経済の発展に微力ながら尽力してまいり所存ですので、皆さまのご指導をたまわりますようお願いいたします。

当社は、1890年に創業者である久保田権四郎が鋳物屋として開業してから135年、さまざまな社会課題を解決すべく、新しい事業に挑戦してまいりました。現在は、食料・水・環境の分野において持続可能な社会の実現に貢献する「豊かな社会と自然の循環にコミットする“命を支えるプラットフォーム”」をめざし、事業活動を推進しています。

近年では、日本における農業従事者の高齢化と人口減少による担い手不足という課題解決の一助となるべく、自動運転農機やデータ活用をはじめとするスマート農業の実現に取り組んでいます。他の産業同様、IoTやAI等の活用が進み、長年の経験と勘に頼るだけではない農業が実現されつつあります。

また、近時の報道でも取り上げられているように、上下水道の老朽化、そして耐震化の遅れは深刻な問題です。水道管の法定耐用年数は40年ですが、全国の水道管の約24%がこれを超過しています。一方で、年間の更新率はわずか0.6%にとどまっています。さらに昨今では、南海トラフ地震などの大規模災害への危機感の高まりとともに、それに対する備えが求められていますが、病院や避難所などの重要施設において、上下水道の両方が耐震化されている割合は15%と低く、災害時の断水リスクが高まっています。国や自治体が対策を講じていますが、われわれ民間企業も課題解決に向け尽力してまいります。

関経連では、科学技術・産業振興委員会の担当を仰せつかりました。関西を中心としたわが国の産業振興に

ついて、幅広く議論されていると聞いております。私のこれまでの経験が少しでもお役に立てばと考えています。

話は変わりますが、私は兵庫県で生まれ育ちました。中学生の時に先の大阪万博に足を運び、アメリカ館の「月の石」や未来の科学技術の展示を目の当たりにし、ワクワクしたことを今でも鮮明に覚えています。それから55年。2025年大阪・関西万博では皆さまをお迎えする側に立つことができ、個人的にも非常に感慨深いものがあります。

「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマには、さまざまな意味が込められていると思います。先人から継承されている「いのち」、現在その数80億以上の地球上すべての人々の「いのち」、未来につないでいくべき「いのち」——。それらすべてを表現し、体感できる場所が万博ではないでしょうか。こうした、さまざまな「いのち」を支えてきたのが科学技術であり、産業界であると、あらためて今回の万博を見て感じています。大阪で創業し、育てていただいた当社も、「いのち」を育む「食と農の未来」をテーマに、万博を通じて関西そして日本の魅力を世界に発信していきたいよう努めています。

また会期後、“万博のレガシーをどのように社会実装していくか”も、われわれに課された重要なテーマであると考えています。新しいビジネスモデルの創出、地域社会への貢献など、さまざまな切り口で、次の50年、100年につなげていけるよう力を注いでまいります。

この関西の地に多少なりとも恩返しするという思いで努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。（談）